

蕎麦の記録

- ・蕎麦栽培の記録として最も古い記録

【養老 6年(722)】「続 日本紀」にある元正天皇の詔が蕎麦の栽培を命じた。

- ・【延喜18年(918)】本草和名で蕎麦の和名として曾波牟岐の字が当てられた。

そばとは

安土桃山時代以前はソバの粒・そば粉・そばがき・そば餅の類も全て「そば」と表現されていた。文献上、麵に加工したそばとは「そば切り」と表記があった場合。

「そば切り」の初見

【天正2年(1574)】定勝寺文書：定勝寺仏殿修復時にソハキリを振舞う の記述。

徳利一ツ、ソハフクロ一ツ千淡内 振舞ソハキリ金永

※ソハフクロ一ツは そば粉一袋

※金永という人物はそば切りを振舞ったのである。

定勝寺(じょうしょうじ)は、長野県木曽郡大桑村須原にある臨済宗妙心寺派の寺院

「定勝寺古文書のそば切り初見」を公開した。

木曽では天正年間にそば切りが作られていた

ことが明らかである。

そば切りに関するわが国最古の史料である。



それまでの「そば切り」に関する最も古い記録は、

近江・多賀大社の(尊勝院)慈性が遺した『慈性日記』で、慶長19年(1614)2月3日の条で

「江戸の常明寺でソバキリを振る舞われた。(事実とは異なるが)」とされている記述であるからこれを一気に40年遡ったことになる。

江戸に徳川家康が入国したのは天正18年(1590)で、幕府を開いたのは慶長8年(1603)であるから、木曽・定勝寺のそば切り振舞は、江戸時代が始まる25年以上も前の出来事であった。